

令和５年度第２回 京都市子どもを共に育む京都市民憲章推進協議会 会議録

1 日 時 令和５年９月１２日（火） 午後２時～午後３時３０分

2 場 所 職員会館 かもがわ ２階 中会議室

3 出席委員 浅川委員、石垣委員、岩本委員、奥田委員、表委員、梶原委員、木塚委員、末廣委員、土橋委員、中村委員、藤谷委員、藤本委員、古川委員、松下委員、松田委員、宮崎委員、山口委員、吉川委員
オブザーバー：國重校長、山崎校長
※下線はオンライン参加者

4 次 第

- ・挨拶
- ・推進協議会委員のご紹介
(報告)
- ・京都はぐくみ憲章の普及及び実践の推進に関する令和５年度の取組状況
(議題)
- ・正副会長の選任について
- ・令和６年度「京都はぐくみ憲章」実践推進者表彰（案）について
- ・令和５年度「京都はぐくみ憲章」子育て応援大交流会（案）について
- ・子どもを取り巻く環境をテーマとした意見交換

5 会議録

(確認事項)

- ・出席の委員が全委員の過半数を超えるため、会議が成立している。

○挨拶

福井 弘 子ども若者はぐくみ局長

○推進協議会委員のご紹介

【報告】

京都はぐくみ憲章の普及啓発及び実践の推進に関する令和５年度の取組状況について

事務局

資料１－１、１－２に基づき説明。

【議題】

(１) 正副会長の選出

出席委員の互選により会長を決定

会 長：松下 姫歌 氏（京都大学大学院 教授）

会長より副会長を指名。

副会長：山口 修平 氏（京都はぐくみネットワーク 幹事長）

→拍手で承認。

(2) 令和6年度「京都はぐくみ憲章」実践推進者表彰について

事務局

資料2-1、2-2に基づき説明。

委員

資料2-1の2表彰の対象で、令和6年1月1日から応募日時点までの活動実績がない場合ではなく、応募時点以降活動予定がない場合という記載が正しいのではないか。また活動紹介を記入するスペースが狭いのでは。

会長

資料2-1、2表彰の対象のただし書きについて、年内に開催予定の事業の準備を行っている団体については、実際に行ってどうなったのかの資料がない。そのため、応募時点までに活動実績がない場合は、活動内容を評価できないため対象外とし、次年度に応募していただく方が良い。

委員

今年度、初めて取り組まれる活動については、有効性や先進性について、記入するのが難しいため、対象外とする必要がある。

会長

記載については事務局で修正をお願いします。

事務局

文章の修正をする。

委員

表彰された団体の活動を後押しできているのか。例えば、京都市の後援手続きなどを行う際のハードルが低くなるなど。持続可能な活動をしていくためには、団体のマンパワーや活動資金面について、何かメリットになるようなことがあればいいのでは。過去の表彰団体でも、活動内容は変化していくので、SNSで最新の情報を市民や全国の方に知らせることができるといいのでは。団体の活動を後押しできるような工夫が欲しい。

(3) 令和5年度「京都はぐくみ憲章」子育て応援大交流会（案）について

事務局

資料3に基づき説明。

(出席者から異議なし)

会長

12月の子育て応援大交流会も受賞者団体同士の交流や繋がり、持続可能な活動ができるようなネットワークを作っていく機会にしたい。

○「子どもを取り巻く環境をテーマとした意見交換」について

事務局

日々子どもたちと接する中で、感じられていることについて幅広い見地からご意見を伺いたい。

また、今後、はぐくみ憲章の普及、実践の取組において、SNS 等を活用した情報発信を重点的に実施することとしていますが、誰に何をどうやって届けばよいか、ご意見を伺いたい。

副会長

自分たち大人が、子どものためと思ってしている活動が、子どもにとっては重荷や負担になる場合もあると聞いた。子どもの自主性や本当にやりたいこと、望んでいることを大人が見極めることが大事だと感じた。

委員

子育ての支援が本当に必要な人は、支援策へのアプローチが下手で、既存のプログラムや活動に繋がっていないと感じている。このような人には、家まで出向かないと繋がることができない。親子イベントなど支援策を行った後に、効果検証することが大切。

委員

児童館では、子どもの見守りや居場所づくりの活動について、お便りで発信したり、出前児童館として、公園へ出向き遊んでいる親子に声掛けし、直接つながる取組を行っている。また、大人が子どものしんどいという言葉や態度を素直に受け止めてあげることも大切。支援する側としては、子どもがほっとできる場を提供したい。

委員

青少年活動センターでは、毎日宿題をしに来る小学生もいる。また、学校がない日にも来る中学生がおり、職員に積極的に学校や家での出来事、しんどさや悩み、楽しい事も報告してくれる子もいる。誰かと話したい欲求があり、そんな場が増えたらいいと子どもたちからも聞く。学校や家以外の居場所をどのように作ればよいか日々考えている。

委員

多くの保護者は孤立を感じている。子育て相談会で悩みや、子どもとどう関わればいいのか相談を聞いている。大きなイベントなど派手な支援活動は、参加のハードルが高いので、地味でも、じっくり自分の話を聞いてもらえるような少人数の親の居場所づくりも大事だと感じている。

委員

乳幼児がいる家庭の居場所づくりを行っており、今年は6か月までの赤ちゃん親子の居場所づくりを行っている。様々な方がボランティアとして協力してくれる中で、参加者同士のつながりもできている。今後つながりを拡大していくために、子育て支援に関する情報にアクセスしやすいようにしてもらえると良いと感じる。

会長

アクセスしやすい情報とはどんな内容で、どう発信すればよいのか考える必要がある。また、支援を必要とする人が、草の根の活動を行っている団体に口コミや、縁でつながって行くこともあるが、こちらから行かないと繋がらない人も沢山いる。どんな方法でも良いから、本当に支援を必要とする人に、生きてつながることが大切。居場所づくりを行い、本当に必要な人への支援を心掛けている団体もあり励まされた。

委員

イベントに参加する子どもは、親が開放的な場合が多く、自分から情報を取りに行く意欲もある。一方で本当につながりが必要な困りがある子どもや家庭は、親が閉鎖的で、地域に対しての警戒やイベント参加に慣れていない。そのような子どもや家庭とつながるためには、親に信頼してもらえるように関わり、情報を発信していくことも大切だと感じる。

委員

今の子どもたちは、自由研究で AI を活用していると聞いた。チャット GPT など仕組みがまだわかっていない大人も多く、未知のものを子どもにどう教えていくのかは、大人にも学びが必要だと感じている。

委員

コロナ禍でできていなかったが、地蔵盆が今年からまた再開した。乳児から高齢者までが繋がれる伝統的な文化が京都には残っているので続けていきたい。